

2020年3月期 第2四半期決算説明会資料

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

グループコミュニケーション部 IRグループ

TEL: 03-3248-2113

URL : <https://www.nichirei.co.jp/ir>

<連結業績サマリー>

主力事業が牽引し、通期計画達成を見込む

1

<加工食品事業>

上期の進捗を踏まえ、通期見込を上方修正

2

需要が堅調に推移するなか、冷凍食品の価値をさらに高める

3

米国では販売が伸長、タイでは生産能力の増強に着手

4

<低温物流事業>

下期も引き続き保管需要は堅調に推移

5

安定拡大に向けた施策を着実に実施

6

<水産・畜産事業>

厳しい状況となるが中計施策を着実に実行

7

<参考資料>

営業利益の増減要因(19/3 - 20/3)

8

営業外収支・特別損益の変動要因

9

各中計期間の業績の推移など

10~12

注：当資料のグラフ・表などで表示されている数値は、別途断り書きがある場合を除き、金額単位表示未満は四捨五入し、一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている。

主力事業が牽引し、通期計画達成を見込む

単位：億円

	第2四半期（累計）				第3・4四半期（累計）				通期			
	実績	前年同期間比		7/30発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比	
		増減	率			増減	率		増減	率	前回見込	増減
加工食品	1,185	41	4%	50%	1,165	43	4%	2,350	84	4%	2,350	0
水産	330	-22	-6%	44%	350	-11	-3%	680	-32	-5%	750	-70
畜産	433	-14	-3%	46%	479	16	3%	912	1	0%	940	-28
低温物流	1,027	27	3%	50%	1,019	8	1%	2,046	36	2%	2,044	2
不動産	25	2	7%	54%	22	-3	-11%	47	-1	-2%	47	0
その他	25	-1	-5%	38%	35	3	11%	60	2	4%	65	-5
調整額	-106	-5	-	-	-109	-6	-	-215	-11	-	-216	1
売上高合計	2,918	28	1%	49%	2,962	50	2%	5,880	79	1%	5,980	-100
加工食品	85	20	31%	53%	77	-4	-5%	162	16	11%	159	3
水産	0	-1	-61%	12%	4	3	533%	4	2	119%	4	0
畜産	5	-2	-35%	33%	6	-1	-14%	11	-4	-24%	14	-3
低温物流	57	1	3%	49%	62	3	4%	118	4	4%	116	2
不動産	11	0	2%	58%	9	-1	-12%	20	-1	-5%	19	1
その他	-4	-6	-	-	1	0	7%	-3	-6	-	3	-6
調整額	-3	-0	-	-	-4	-1	-	-7	-1	-	-10	3
営業利益合計	150	12	9%	49%	155	-2	-1%	305	10	3%	305	0
経常利益	154	14	10%	50%	151	-7	-5%	305	6	2%	305	0
当期純利益	95	1	1%	48%	105	-0	-0%	200	1	0%	200	0
為替レート	2019年度 見込	2019年度 上期実績	2018年度 上期実績									
米ドル/円	110.00	110.06	108.69									
ユーロ/円	130.00	124.32	131.64									
パーツ/円	3.40	3.49	3.43									

注：①当期純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益」を指しております。
②為替レートの実績は1月～6月の期中平均で算出しております。

1. (上期)

- ①売上高は、主力の加工食品や低温物流が全体を牽引し増収を確保。
- ②営業利益は、その他の事業(バイ材仕入)が苦戦したが、加工食品の増益により全体で9%の増益。

2. (通期)

- ①売上高は、水産や畜産が採算性を重視した販売に徹し下方修正。
- ②営業利益は、畜産やその他の事業のマイナスを加工食品や低温物流でカバーし、通期計画達成を見込む。

加工食品事業



上期の進捗を踏まえ、通期見込を上方修正

単位：億円

		第2四半期（累計）				第3・4四半期（累計）			通期				
		実績	前年同期間比		7/30発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率			増減	率		増減	率	前回見込	増減
加工食品	売上高 計	1,185	41	4%	50%	1,165	43	4%	2,350	84	4%	2,350	0
	家庭用調理品	311	15	5%	49%	325	18	6%	636	33	5%	636	0
	業務用調理品	502	11	2%	49%	518	25	5%	1,020	36	4%	1,020	0
	農産加工品	103	0	0%	51%	97	6	7%	200	7	4%	200	0
	海外	177	17	11%	53%	160	-7	-4%	337	11	3%	337	0
	その他	93	-2	-3%	59%	64	-0	-0%	157	-3	-2%	157	0
	営業利益	85	20	31%	53%	77	-4	-5%	162	16	11%	159	3

1.（上期）

- ①家庭用調理品は、チキン加工品やリニューアルした米飯類の販売が好調に推移し増収。
- ②業務用調理品は、中食向けチキン加工品の販売が伸長し増収。
- ③営業利益は増収効果に加え、関係会社の業績が改善し増益。

2.（通期）

- ①家庭用調理品の販売は、主力商品を中心に引き続き好調を維持。
- ②業務用調理品は、チキン加工品に加え、食肉加工品や春巻類などの主力カテゴリの拡販を進める。
- ③営業利益は、増収効果や関係会社の業績改善などの進捗を踏まえ、通期見込を上方修正。

【進捗と今後の施策】

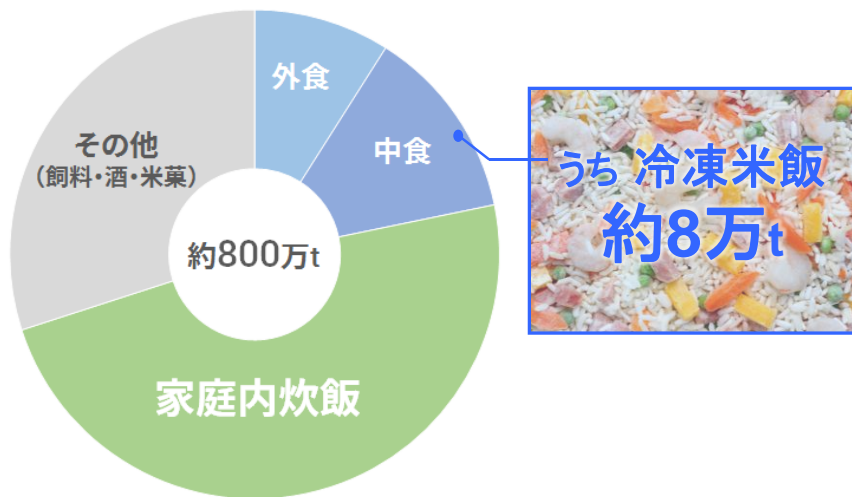
1. 家庭用調理品

- ① 需要が好調な米飯類やチキン加工品のラインアップを拡充するなど、主力カテゴリを強化。
- ② 個食向け商品や様々な食シーンに対応した商品を発売し、新規需要の開拓を進める。

2. 業務用調理品

- ① 主力のチキン加工品や春巻類では、継続的な品質向上とメニューの拡充を進める。
- ② ボイル調理で揚げ物を提供するなど業態毎のオペレーション課題に貢献する商品の開発と浸透を図る。

【冷凍米飯の消費割合】



(出典) 「米穀安定供給確保支援機構」 「農水省」
2018年データより算出

【米飯類の商品戦略】

ベーシック商品の磨き上げ・
ラインアップの充実

既存品

新商品



適量・個食需要

新規需要の創造

健康志向対応など



※写真はイメージ



※写真はイメージ

米国では販売が伸長、タイでは生産能力の増強に着手

【進捗と今後の施策】

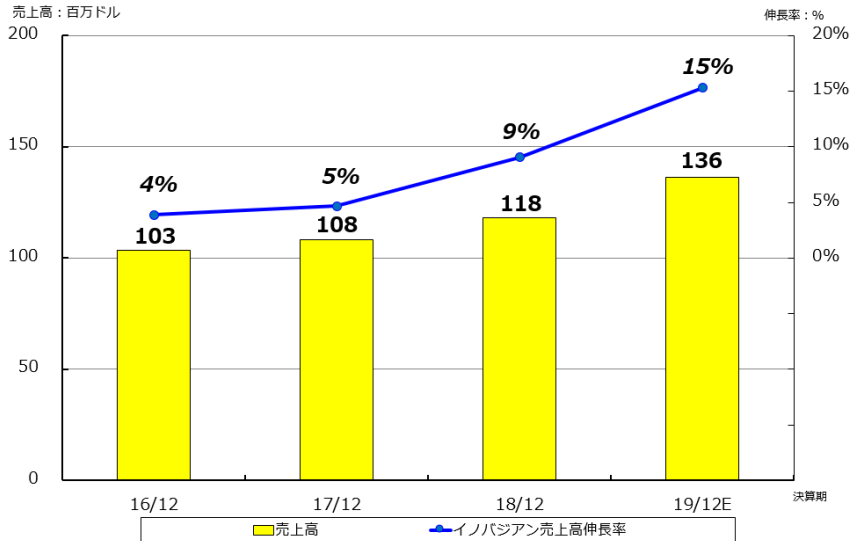
1.イノバジアン・クイジーン（米国）

- ・ アジアンフーズ市場での更なる成長をめざし、積極的な販促活動により店頭回転とブランド認知度を高めるとともに、新たな顧客獲得に向けた商品開発を進める。

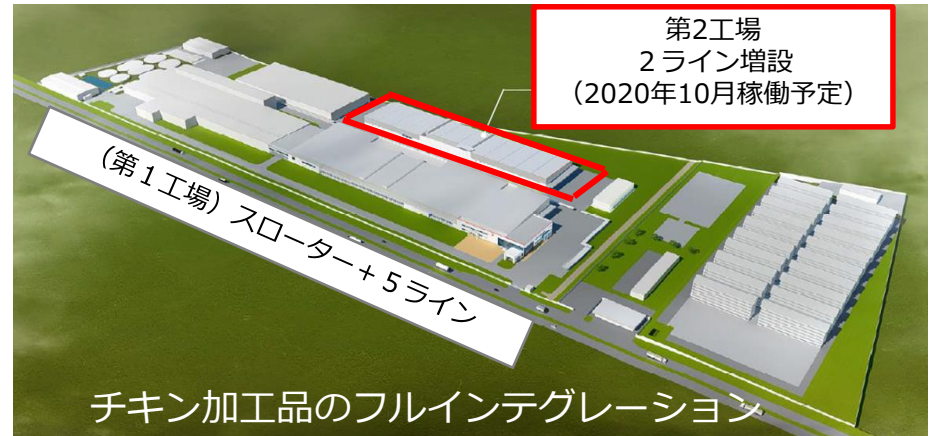
2.GFPTニチレイ（タイ）

- ・ チキン加工品の生産能力増強と付加価値向上に向けて、第2工場の建設に着手。
- ・ タイ国内における鶏副産物の販売単価向上策を進め、収益改善を図る。

【イノバジアン・クイジーンの売上高と伸長率の推移】



【GFPTニチレイ第2工場（イメージ）】



低温物流事業



選ばれつつける仕事。

単位：億円

	実績	第2四半期（累計）			7/30発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	第3・4四半期（累計）			通期			
		前年同期間比		増減			前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比	
		増減	率				増減	率		増減	率	前回見込	増減
売上高計	1,027	27	3%	50%	1,019	8	1%	2,046	36	2%	2,044	2	
国内小計	823	26	3%	51%	802	7	1%	1,624	33	2%	1,608	16	
物流ネットワーク	498	33	7%	52%	481	9	2%	979	42	4%	963	16	
地域保管	325	-7	-2%	50%	321	-2	-1%	646	-9	-1%	646	0	
海外	187	-3	-2%	47%	192	-1	-1%	379	-4	-1%	398	-19	
その他・共通	18	5	34%	47%	25	3	13%	43	7	21%	38	5	
営業利益計	57	1	3%	49%	62	3	4%	118	4	4%	116	2	
国内小計	54	1	2%	51%	54	4	8%	108	5	5%	106	2	
物流ネットワーク	21	1	3%	50%	20	2	9%	41	2	6%	41	0	
地域保管	33	1	2%	51%	34	2	7%	67	3	4%	65	2	
海外	6	0	3%	46%	6	-0	-6%	12	-0	-2%	12	0	
その他・共通	-3	0	-	-	1	-1	-	-2	-1	-	-2	0	

注：地域保管の一部の拠点を物流ネットワークへ移管

1. (国内)

- ①上期はTC（通過型センター）の取扱いが拡大したことや、保管が堅調に推移し増収。労働力不足によるコスト上昇はあるものの、増収効果や作業の効率化などによりカバーし、利益は前期を上回る。
- ②引き続き保管需要は堅調に推移することから、通期見込を上方修正。

2. (海外)

- ①上期は景気の先行き不透明感による荷動き鈍化やユーロ安の為替換算影響を受けたが、利益は前期並みを確保。
- ②下期は新規顧客の獲得や運送事業の効率化を進め、通期で利益計画の達成を見込む。

安定拡大に向けた施策を着実に実施

【進捗と今後の施策】

(保管)

- ・首都圏港湾地区は旺盛な保管需要を取り込むとともに、コストやサービス内容に応じた料金收受を進め、収益性を改善。
- ・関西地区では、保管・運送の一体運営に向けた基盤づくりを進める。
- ・名古屋みなとDCの建設に着手（2020年4月稼働予定）。

【名古屋みなとDCの狙い】

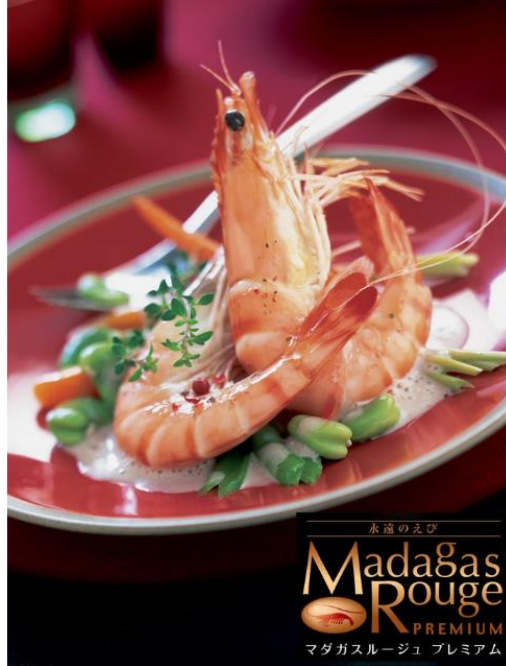
- ・老朽化した施設を一部閉鎖し、今回新設することで地区全体の競争力を維持するとともに、貨物の最適配置に取り組む。
- ・需給がタイトな東京・大阪港湾地区の補完として、名古屋地区で輸入品のワンストップサービスを展開。
- ・将来の労働力不足に備えた「業革モデルの基幹センター」の位置付け。

【名古屋地区の主な拠点】



水産・畜産事業

海と大地と人をつなぐ



厳しい状況となるが中計施策を着実に実行

単位：億円

	第2四半期（累計）				7/30発表の 通期見込に 対する進捗率	第3・4四半期（累計）			通期				
	実績	前年同期間比		見込		前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比		
		増減	率			増減	率		増減	率	前回見込	増減	
水産	売上高	330	-22	-6%	44%	350	-11	-3%	680	-32	-5%	750	-70
	営業利益	0	-1	-61%	12%	4	3	533%	4	2	119%	4	0
畜産	売上高	433	-14	-3%	46%	479	16	3%	912	1	0%	940	-28
	営業利益	5	-2	-35%	33%	6	-1	-14%	11	-4	-24%	14	-3

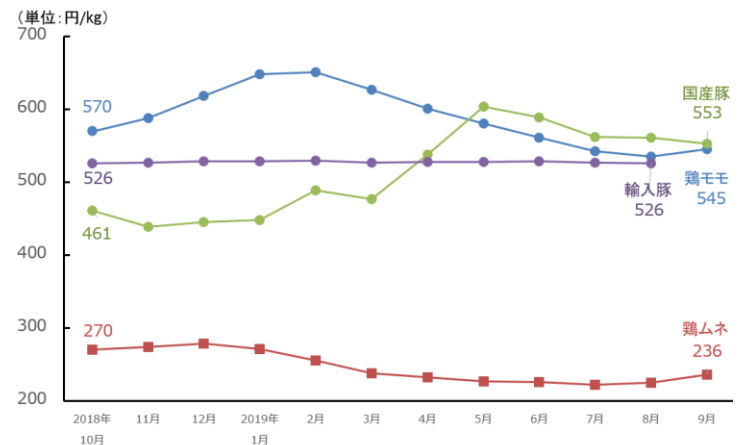
1. (水産)

- ①上期は「たこ」の販売価格下落の影響などにより減収・減益。
- ②最需要期である第3四半期での主力商材の販売や、加工品の取扱い拡大に加え、国内外の自社加工拠点の稼働率向上により収益の安定化を図る。

2. (畜産)

- ①上期は国産鶏肉相場が軟調に推移したことや、輸入豚肉の取扱いを絞り込んだことなどにより、減収・減益。
- ②下期も中食・外食向け加工品や差別化商品の拡販に注力するが、上期の遅れが響き通期で下方修正。

【豚肉・国産鶏肉の月別平均単価推移】



出典：農畜産業振興機構統計データ

参考資料

営業利益の増減要因（19/3 - 20/3）

<加工食品事業>

単位：億円

	第2四半期 (累計)	第3・4四半期 (累計)	通期	
	実績	見込	見込	前回見込比
19/3期 営業利益	65	81	146	-
増益要因	26	4	30	0
増収効果	9	12	21	0
原材料・仕入コストの増減 (為替影響含む)	2	-3	-1	-1
生産性改善	3	2	5	0
関係会社の業績影響額	12	-7	5	1
減益要因	-6	-8	-14	3
減価償却費増	-2	-5	-7	5
広告宣伝費の増減	-2	-2	-4	0
その他	-2	-1	-3	-2
20/3期 営業利益見込	85	77	162	3

<低温物流事業>

単位：億円

	第2四半期 (累計)	第3・4四半期 (累計)	通期	
	実績	見込	見込	前回見込比
19/3期 営業利益	55	59	114	-
増益要因	5	9	14	2
集荷増による業績影響額	2	2	4	0
業務改善効果	2	3	5	1
運送効率化	1	1	2	0
その他	1	2	3	1
減益要因	-4	-6	-10	0
輸配送コスト増（純額）	-1	-2	-3	0
作業委託コスト増（純額）	-1	-2	-3	-1
電力コスト増（純額）	-1	-1	-2	0
新設拠点稼働の一時費用	-1	0	-1	1
その他	0	-1	-1	0
20/3期 営業利益見込	57	62	118	2

営業外収支・特別損益の変動要因

単位：億円（未満切り捨て）

プラス表示は利益を示す	第2四半期累計			通 期		
	18/9	19/9	増減	19/3	20/3E	増減
【営業外収支】	2	4	1	3	0	△2
（主要項目）						
金融収支	0	1	0	0	△0	△0
持分法による投資損益	2	2	△0	3	1	△2
【特別損益】	△1	△8	△6	△3	△10	△6
（主要項目）						
固定資産売却益	1	0	△1	2	0	△1
固定資産売却損・除却損	△2	△8	△5	△10	△16	△5
減損損失	△0	△0	0	△0	△0	0

各中計期間の業績の推移

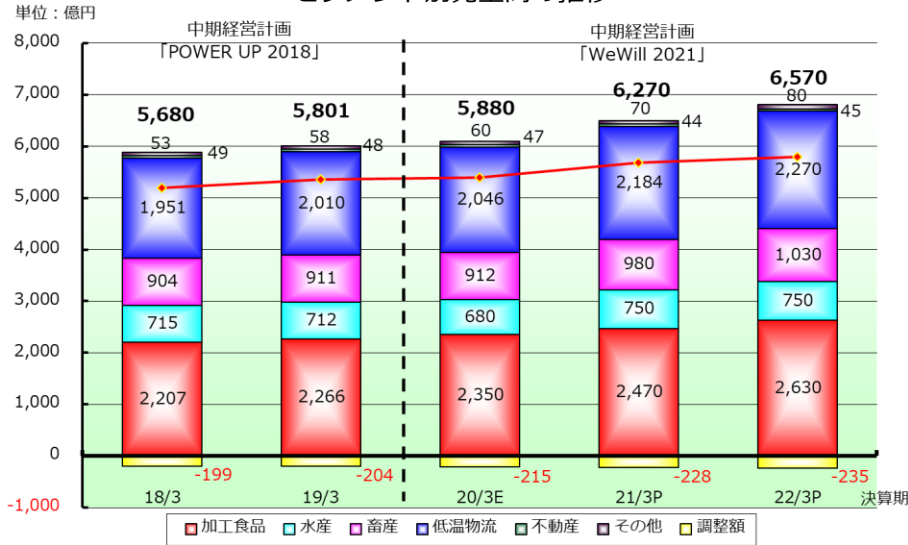
単位：億円

	energy 2012 (10-12年度)			RISING 2015 (13-15年度)			POWER UP 2018 (16-18年度)			WeWill 2021 (19-21年度)		
	11/3	12/3	13/3	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3E	21/3P	22/3P
加工食品事業	1,619	1,742	1,616	1,807	1,939	1,992	2,050	2,207	2,266	2,350	2,470	2,630
水産事業	668	657	637	686	687	688	694	715	712	680	750	750
畜産事業	783	756	755	801	895	920	881	904	911	912	980	1,030
低温物流事業	1,394	1,495	1,564	1,684	1,783	1,849	1,869	1,951	2,010	2,046	2,184	2,270
不動産事業	66	49	47	50	47	46	46	49	48	47	44	45
その他の事業	62	60	58	37	44	52	45	53	58	60	70	80
調整額	△ 215	△ 210	△ 200	△ 191	△ 196	△ 194	△ 189	△ 199	△ 204	△ 215	△ 228	△ 235
売上高合計	4,378	4,549	4,477	4,874	5,200	5,354	5,397	5,680	5,801	5,880	6,270	6,570
加工食品事業	46	52	60	34	54	80	139	146	146	162	169	187
水産事業	6	2	1	4	2	7	8	3	2	4	7	8
畜産事業	4	5	5	1	4	4	16	13	15	11	16	18
低温物流事業	73	74	86	89	87	100	106	113	114	118	114	127
不動産事業	36	24	23	24	21	22	21	22	21	20	17	18
その他の事業	4	5	4	4	6	9	6	8	3	△ 3	4	6
調整額	△ 2	0	0	1	0	△ 5	△ 3	△ 5	△ 6	△ 7	△ 12	△ 14
営業利益合計	167	162	179	158	174	216	293	299	295	305	315	350
経常利益	161	153	172	144	169	214	291	307	299	305	317	352
親会社株主に帰属する当期純利益	40	79	98	89	95	135	188	191	199	200	205	220
設備投資等（リース資産を含む）	221	122	132	240	242	162	139	250	241	297	434	216
（リース資産を除く）	181	94	107	212	198	132	103	223	213	262	387	201
有利子負債（リース債務を含む）	970	978	969	1,061	1,077	947	898	977	960			
（リース債務を除く）	725	748	754	857	873	755	709	798	789			
D/Eレシオ（倍）	0.8	0.8	0.8	0.8	0.7	0.6	0.5	0.6	0.5			
（リース債務を除く）	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.4	0.5	0.4			
自己資本比率（%）	40.4	40.2	41.3	41.9	43.0	44.4	46.0	44.3	46.9			
ROE（自己資本利益率）（%）	3.4	6.8	8.2	6.9	6.8	9.1	12.1	11.9	11.7			

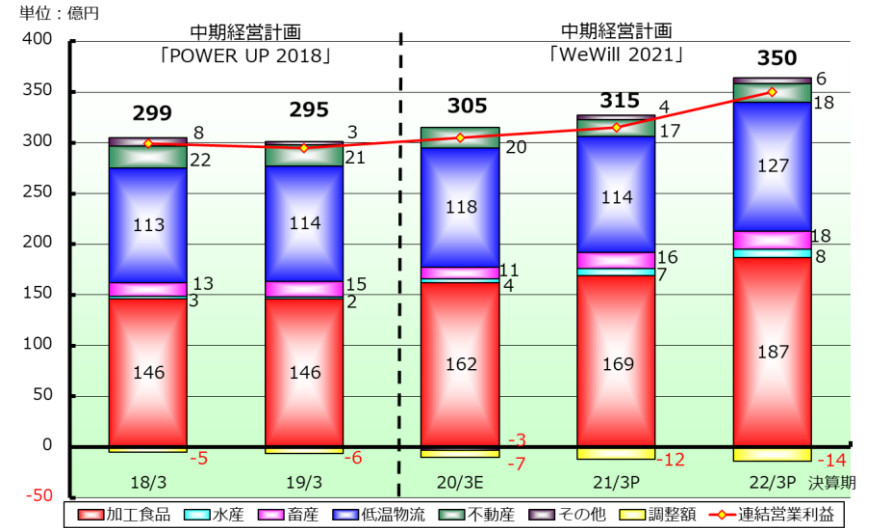
注：①設備投資等には無形固定資産を含む

②13/3より、加工食品の売上高は、売上計上基準の変更（従来、販売費で計上していたものの一部を売上高から控除）による影響を反映

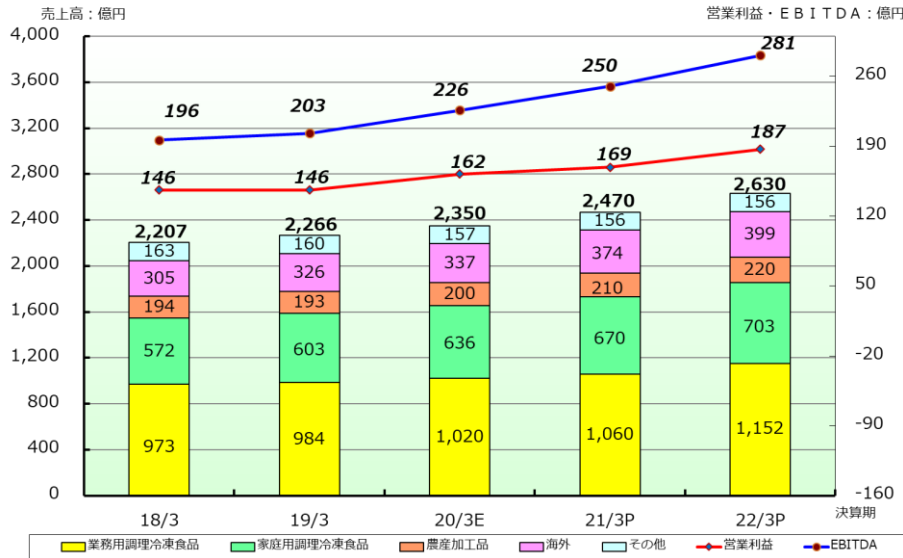
セグメント別売上高の推移



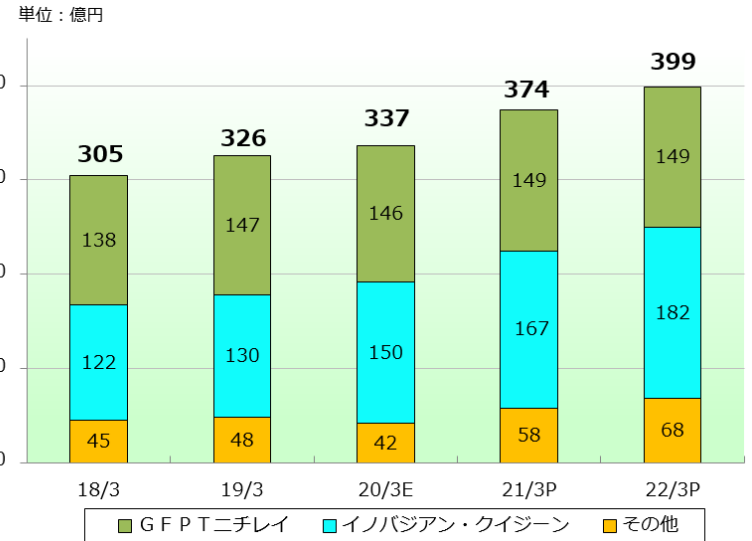
セグメント別営業利益の推移



加工食品事業の売上高・営業利益・EBITDA推移

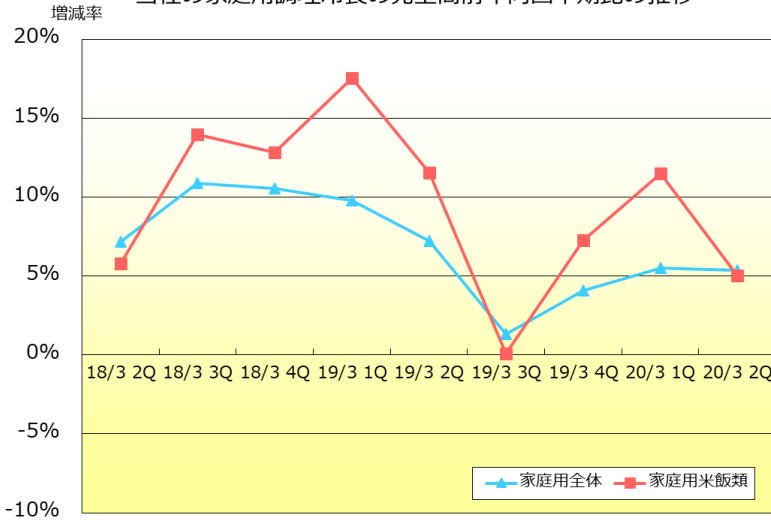


加工食品事業の海外売上高の推移

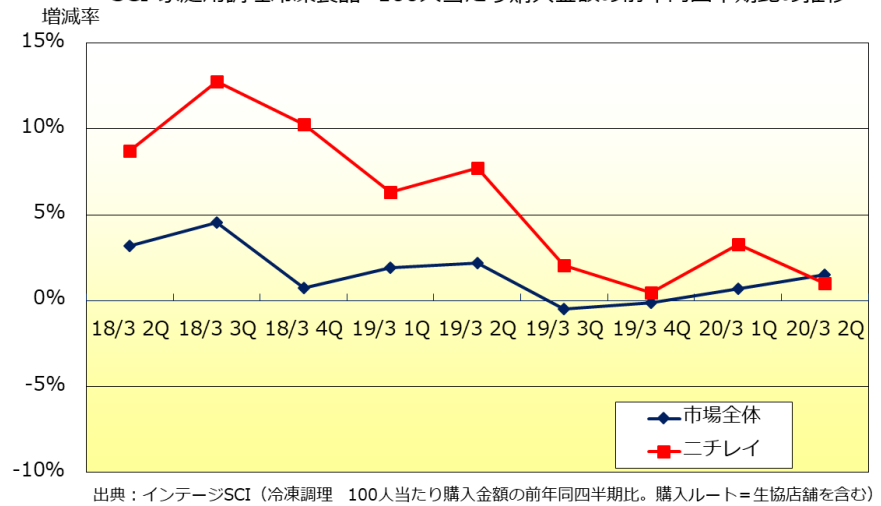


注：GFPTニチレイの売上高は欧州向けとタイ国内向けの合計

当社の家庭用調理冷食の売上高前年同四半期比の推移

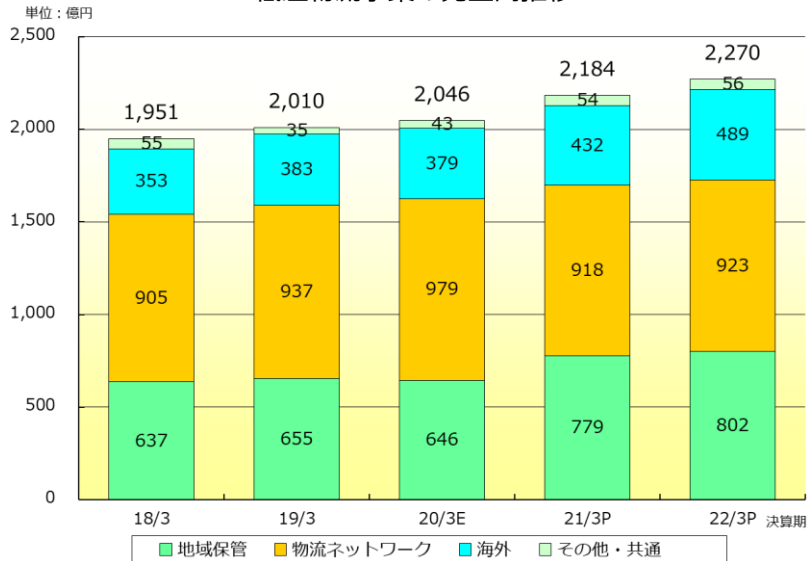


SCI 家庭用調理冷凍食品 100人当たり購入金額の前年同四半期比の推移

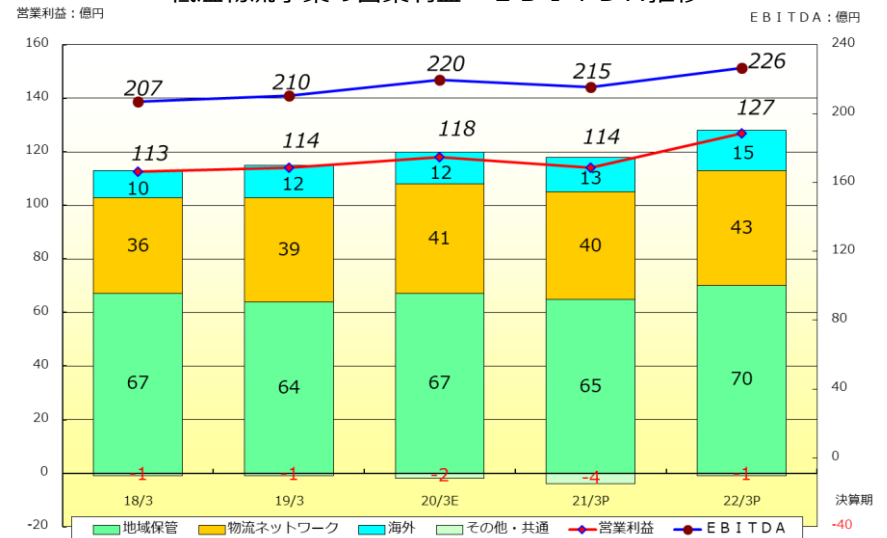


出典：インターエイSCI（冷凍調理 100人当たり購入金額の前年同四半期比。購入ルート=生協店舗を含む）

低温物流事業の売上高推移



低温物流事業の営業利益・EBITDA推移



当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。